

ナカイケミヒメテントウ

Scymnus nakaikemensis Sasaji & Kishimoto
コウチュウ目・テントウムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では中池見湿地でしか採集されておらず、分布は局所的と考えられる。湿地環境に依存しているため、環境の変化、悪化による影響を受けやすい。今回の調査では確認されておらず、1999年の記録以降採集されていない。

種の特徴

体長 1.7 ～ 2.0 mm。小型で美しいヒメテントウである。クロスジヒメテントウに酷似するが、腹部第1節の腿節線が完全なことで区別できる。湿原のヨシやスゲに生息するという特殊な生態を持つ。

分 布

本県では敦賀市中池見が唯一の生息地であり、本県以外では栃木県渡良瀬湧水池及び群馬県館林市で記録されている。分布は局所的であると思われる。

生息を脅かす要因

本県唯一の生息地である中池見湿地では、外来種の進入等による環境の悪化が心配される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、佐々治 (1998)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

キンイロネクイハムシ

Donacia japana Chûjô & Goecke
コウチュウ目・ハムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内の生息地はあわら市（旧金津町内）に限られ、今回の調査でもあわら市内の2地点で生息を確認できたのみ。本種の生息地ではため池の改修や外来種の侵入が認められており、県内で本種の安定した生息地は非常に限られている。

種の特徴

体長 7.0 ～ 8.9 mm。体は全体に金銅色か金緑色。上翅に赤または青の縦条斑がある。県内では成虫は4月下旬～6月、9月下旬～11月初旬に確認されている。ため池や水路に生息。食草はミクリ類で、成虫はその葉を食するほか、スゲ類に訪花する。

分 布

北海道、本州、九州に分布。県内では、あわら市（旧金津町）東山、鳥越、後山、熊坂で過去に記録があり、今回はあわら市後山、権世で確認された。

生息を脅かす要因

今回本種が確認されたあわら市後山のため池では、外来種が多くみられ、特にアメリカザリガニによるため池の植生破壊により本種の食草が消失することが心配される。既知生息地周辺もため池の改修や外来種の侵入がみられ、本種の生息環境は悪化している。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、林 (2012)、環境省 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				

ザウターカギバラバチ

Taeniogonalos sauteri Bischoff
ハチ目・カギバラバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認生息地数は減少し、今回の調査で確認できたのは1地点のみ。詳細な生息環境がわかっていないことも本種の採集を困難にしている原因と考えられることから、現ランク維持とした。

種の特徴

体長 8 ～ 11 mm。体に黄・赤褐色のまだら模様を持つ美麗種。卵はヤナギやネム等の葉に産み付けられ、卵が葉と一緒に食べられることでチョウ目の幼虫の体内に入る。そのチョウ目の幼虫が次にスズメバチ類の餌になり、孵化したカギバラバチの幼虫はスズメバチ幼虫の体内に入り成長する。

分 布

本州～九州、南西諸島に分布。県内では、大野市朝日前坂、嵐、嵐口、谷山、美山町赤谷での記録がある。もっとも最近の記録は2000年に大野市大谷で採集された1メス。

生息を脅かす要因

農山村の過疎化が進み、木造家屋が少なくなって、寄主であるスズメバチの営巣場所が狭まったことや、除草剤、農薬の空中散布等が存続を脅かしていると考えられる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田 (2000)、羽田ら (2007)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

昆虫類